

第5回 長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会 要点録

日 時 令和6年9月10日(水)10時10分～11時54分
場 所 長浜西幼稚園、神照幼稚園
出席者 (委員)水本座長、大橋副座長、西川委員、西田委員、森委員、中川委員、
水谷委員、福永委員、辰野委員
(事務局)為永管理監、稻葉課長代理、成田室長、廣部副参事、藤田指導員
欠席者 塚田委員、文室委員、喜田委員

長浜西幼稚園視察(10時10分～10時56分)

1. 園内視察
2. 幼稚園から資料に基づいて説明
 - ・本園は、長浜北幼稚園の分園だった。平成13年度に3年保育実施となり、園児の増加があり、独立園として長浜西幼稚園となった。翌年度に現在地の相撲町に新築移転した。
 - ・園区は、本年度の在園児の通園区域としては祇園町、相撲町、森町となっている。
 - ・通園は個人送迎で、徒步通園が原則だが、まちづくりセンター(養蚕の館)の駐車場があるので、そこから徒步で通園してくる子がほとんどになっている。
 - ・特色ある保育として、お蚕さんの保育を進めている。
 - ・預かり保育が令和2年度から幼稚園にて教育時間9時から午後2時までの前後の時間と長期休業中に行っている。利用人数は少しずつ増えている。総人数に対する割合も高くなっている。
 - ・進学先としては、本年度は全員、長浜北小学校就学予定である。1学年3～4学級のクラス編成の小学校で、近年は10ほどの就学前施設から集まっていると聞いている。
 - ・今年度、園小接続のカリキュラムとして、幼児教育の学びの芽生えを小学校の学びの基礎へつなぐということの重要性が言われ、本園でも参観等を通して、保育や事業に取り組んでいる。
 - ・園児数と進学先の児童数のギャップがある。どうしても人間関係の弱さはあると思われるが、集団規模に関わらず、自分の思いを出せる力をつけられるよう園では取り組んでいる。
 - ・地域との連携では、まちづくりセンター(養蚕の館)の館長とは連携をとっている。
 - ・ボランティア団体が世話をされた園舎西側のひまわり畑の迷路でも遊ばせていただくなど連携も行っている。

3. 意見交換

- ・園児の男女比は。
→7人中、男子2人。
- ・園児数が減ってきたことによる変化を感じているか。
→ある一定の集団が欲しい。3歳児は生活習慣の自立のため、少ない人数の方が丁寧な指導ができると思う。学年が上がるにつれて競い合いや意見の出し方などで高まりが少ないと感じることがある。そこで、園内研ではつながりを大事にした取組を進めている。
- ・保護者の考え方や園への期待などで変化を感じているか。
→人数の少なさにはいろいろ感じておられることがあると思う。「次の学年の園児数はどのくらいですか?」と質問されることはあった。
- ・園小連携という話があったが、10の施設の連携はあるのか。
→横の連携も大事と思う。特に長浜北幼稚園とは公立園で同じ立場でもあり、以前は交流をしていた時もある。
- ・園庭の整備は職員だけでやっているのか。
→除草については、保護者にもお願いしている。環境整備活動は定期的に行っており、また、今年度は保護者の一部の方が、有志として登園後の朝から15分ほど除草をしてくださることもあった。
- ・先生の人数が結構少ないので大変だと危惧している。
→幼児課の予算で、シルバー人材センターを利用している。
- ・先ほどのボランティアグループはしてくださいのか。
→依頼すればしてくださいこともあるかもとは思う。子どもたちのためにと地域づくりのボランティア団体の方で魚つかみなど体験できるようにもされていると聞いている。地域にいる子は参加して楽しかったという感想を聞いたことがある。
- ・PTA組織があると思うが、保護者全員が会員として入っているのか。
→全員参加されている。環境部会と広報部会の2つに分かれている。以前は4部会があった。運動会などは保護者に一部お手伝いしていただくなど負担にならない形で行っている。
- ・PTA組織の維持について、その事務を先生がしていて負担になっていると思うが。
→この園では、お母さん同士の繋がりがある。少ないが、そういう意味ではPTA活動として成り立っている。
- ・PTA組織を決めるときの苦労は。
→会長など立候補があればよいがない時もある。昔通りの以前からの規約では難しくなってきた。規約の変更などは保護者に任せている。PTA会長の選出は5歳児の保護者からとなっている。

- ・来年度の人数の見込みを教えてほしい。
→資料配布が昨日から始まつたばかりで、昨日の段階で 3 人。
- ・住宅地が増えている印象をすごく受けるので、当然子どもたちも増えていると思うが、認定こども園とか保育園にニーズが高まっている分、幼稚園離れという現実があり、全体数に対しての預かり保育が、今後はどんどん増えていくと感じた。
→5 歳児に限っては 10 人中 5 人で半分が利用希望で増えている。
- ・フルで仕事をされている方は難しいと思うが、少し短い働き方をされている方は幼稚園の預かりを利用されるとよい。低年齢からだとそのまま認定こども園にとなっていく。幼稚園に 3・4・5 歳児が行くといいが、現実的に難しい。できる方法があればよいと思う。
- ・預かり保育は申し込んだら、大体通るのか。
→定員が決まっており、各園で違うが、本園は空きがある状況。
- ・3 歳で入れなかつたら来年も無理と思う人が多い。復帰したくても復帰できない。
→未就園の広場で、子育て支援課とも連携をしている。地区は限らず行っており、年間、常時 10 組ほどあるので、子育ての支援施設に対する希望、要望があると思う。未就園の広場で、他園区の保護者から「幼稚園に預けたい。」という思いを聞いた。保護者にとっては、選べる環境があることがよいと感じた。

神照幼稚園視察(11 時 5 分～11 時 54 分)

1. 園内視察
 2. 幼稚園から資料に基づいて説明
- ・長浜市市街地に位置している。園の北側が自然豊かな環境だが、この園周辺は新興住宅地の開発によって自然環境が激減している。
 - ・園区はかなり広く、東は長浜養護学校まで、西はケーズデンキ、南は長浜のキャノン工場、北は旧の長浜北高校。
 - ・一番遠い場所は旧長浜北高校周辺の子どもたちで、1.4 キロほどあるので、自動車もしくはバス通園をしている。徒歩通園を推奨しているので、30 人ほどが歩いてきている。自動車は、預かり保育を含めると 25 人いる。バスは 2 台あり、合わせて 24 名の子どもたちが利用をしている。だいたい 30 分前後の時間を費やしてやってくる。
 - ・預かり保育は、申し込み者 35 名で、ほぼ毎日利用されている。平均 30 人前後。朝の預かりは 8 時半からで 15 人ほどの利用者がいる。午後の利用時間は 14 時から 17 時 15 分までとなっている。夏休みなど長期休暇中の利用者も数名いる。
 - ・地域との連携は、栽培物の先生、更生保護女性会や地域の農家の方などボランティアの方に関わっていただいている。ほかにも民生委員やボランティアグループにも関わっていただいている。

- ・保護者参観は行事のときに入っていたとき、親子のふれあい活動なども行っている。環境整備活動は、敷地が広大なので、保護者に来ていただいて取り組んだ。横断歩道の橋渡しに協力いただいている。保護者で読み聞かせのボランティアグループを作つておられるので、読み聞かせをしていただいている。
- ・幼稚園の園児は全体的に減少傾向だが、本園では 1 クラスに 20 人前後在籍しているので、人の関わりの学びの場は保障されている。

3. 意見交換

- ・預かり保育の利用者が 35 人だが、増えているのか。
→兄弟で利用されることもあり、増えている。
- ・支援を必要とする子どもは増える傾向か。
→個別の配慮を必要とする子が複数いる状況で、増えてきている。
- ・園児数に波があり、確定しづらい状況だが、園としてどのように感じているか。
→10 月の入園申請により来年度の人数を読めるが、幼稚園の場合は、申請期間を過ぎた後でも園区内のお子さんから入園申請があればすべて入園受け入れくなっている。
- ・園児数に波があり、令和 4 年度から令和 5 年度では 3 歳児が半分になっている。
その原因は。
→国の政策により、保育料の無償化が始まった時点で、全国的に幼稚園の園児数が減少することは予測されていた。また、就労により、長時間保育を必要とする保護者が保育園や認定こども園を選択されるという社会状況により、幼稚園の園児数は減少している。
預かり保育により、就労される保護者に対応しているが、利用時間や長期休業中に給食がないことがネックとなり、フルタイムで就労されている保護者のニーズは低いと思われる。
- ・保護者のつながりを気にしている。保護者の人間関係やグループへ入ることでのフォローがあるか、教えてほしい。また、子育て支援の相談件数も教えてほしい。
→気の合う保護者同士で交流されており、子どもの送迎時に楽しそうに話す姿が見られる。子育て相談の利用は少ない。利用を勧めることで、若干名の相談があつたが、継続して利用されることはなかった。
- ・PTA の活動はどのようにされているのか。
→PTA 組織の見直しが喫緊の課題と感じている。本園では、会長は年長児の保護者がされ、その他の役員はすべての 4 歳児の保護者が担当されている。園児数の減少により、再任せざるを得ない状況になりつつあるため、規約改正を進めたいと考えている。
- ・子どもたちの変化、発達の課題などどのように感じているか。

→全体的に受け身的な姿が多く見られる。園では、子どもの心が動く遊びや活動の環境を整え、主体的に「人」や「もの」や「できごと」に関わっていく力を育てていきたいと考えている。